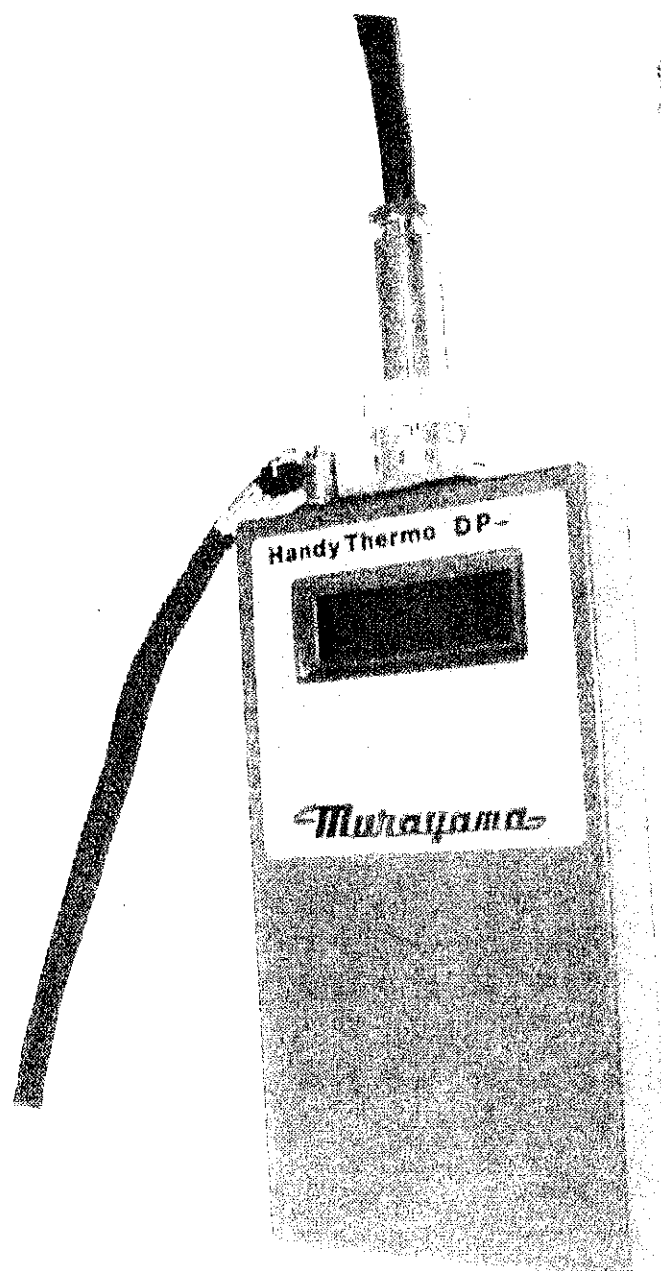


DP-31Cハンディ・サーモ

(Handy Thermo)

取扱説明書



 株式会社村山電機製作所

MD-40627

Mitsubishi

はじめに

今回は“DP-31C ハンディ・サーモ”をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ございます。

“DP-31C ハンディ・サーモ”は、最新の電子技術と長年に亘る弊社の計測技術の経験をフルに活用して「正確で取扱容易」をモットーとし、雨天時に戸外でもご使用出来るように防滴形として製作しましたので、ご使用にあたっては必ずご満足いただけるものと確信しております。

ご使用に際しては、本器を正しく安全に、かつトラブルを未然に防ぐためにも取扱説明書を必ずお読みいただき、使用上の注意事項を確認の上、末永くご愛用下さい。

お願い

- この説明書は、本器をお使いになる方のお手元へ確実に渡るように手配して下さい。
- この説明書は、保守の際にも必要です。本器を破棄するまで大切に保管して下さい。

お断り

- 本書の内容につきましては、万全を期しておりますが万一ご不審な点や誤り、記載もれなどありましたら当社までご連絡下さい。
- 運用した結果につきましては、責任を負いかねる場合がございますので了承下さい。


1. 使用上の注意

- 1). DP-31C ハンディ・サーモは、高度な電子技術と品質管理のもとに厳重な検査工程を経て調整されています。
又、構造上の防滴機能が損なわれる恐れがありますから絶対に分解しないで下さい。
分解された場合、その後の故障については、その責を負いかねる場合があります。
- 2). 投げたり、落としたりなどのショックを与えないで下さい。
故障・破損することがあります。
- 3). -5°C 以下、 $+50^{\circ}\text{C}$ 以上の所での使用は避けて下さい。
特に直射日光の当たる所に放置しておく、内部温度が異常に上昇し、機能劣化あるいは破損することがあります。
- 4). 計測部は完全防滴構造になっていますが、電池室は簡易防滴構造です。
万一電池室に水が入った場合、よくふき取って下さい。
電池室と計測部は隔離されています。よく乾かしてからご使用下さい。
- 5). DP-31C ハンディ・サーモを長時間ご使用にならない場合は、電池を外して下さい。
特に消耗済電池は絶対に電池室に入れたまま放置しないで下さい。
- 6). 測定対象物にセンサを当てるとき、対象物が帯電していると人体に対して危険な場合があります。
よく確認してから測定して下さい。
- 7). 湿度の高い所や腐食性ガス・塩霧などの発生する場所でのセンサコネクタの抜挿しは行わないで下さい。
特に塩霧の発生しやすい海上・海岸や薬品のある室などでは、コネクタは挿入したままにしておいて下さい。
- 8). ケースはABS樹脂製ですから、シンナーなど揮発性の液体や高温に弱いので、汚れた場合は柔らかい布で拭き取って下さい。
特に汚れがひどい場合は、水で湿らせた柔らかい布で拭くと、効果があります。

2. 使用方法

- 1). センサコネクタと本体のコネクタを接続し、ロックリングでしっかり固定します。
固定金具の締付けが悪いと水をかぶった時に、すき間からコネクタ内部に水が浸入しますから注意して下さい。
- 2). 本体下部の押ボタンスイッチを押すと電源が入り、測定状態となります。
- 3). 押しボタンスイッチは、押すたびに電源の ON⇔OFF が繰り返されます。

3. 乾電池の寿命と交換方法

- 1). 乾電池は 006P 形 (9V) を 1 個を使用しています。
- 2). 乾電池の寿命は、連続使用で 50~60 時間、間欠的使用ではもっと寿命が長くなります。
- 3). 乾電池が消耗して、本器の性能が損なわれる電圧以下に降下すると、ローバッテリー警告灯 “” が最上位桁の左下側に点灯します。
このときは新しい電池と交換して下さい。
- 4). 電池の交換は、まず電源スイッチを OFF にして、本体裏側下部の電池蓋を矢印の方向へ指先で押すと、電池蓋が外れます。
次に電池を取り出し、電池からスナップを外します。
新しい電池をスナップに挿入し、電池室に納めて電池蓋を閉じて下さい。

(注) 電池の交換は、必ず電源スイッチを OFF にして (+) ・ (-) の極性を間違えないようにご注意下さい。

4. 測定上の注意

センサの先端から約 40~50 mm の所までが感温部分です。
測定の場合は、感温部分を測定対象物に十分に挿入して下さい。
また、細径センサの場合は、センサに曲げ応力を加えますと、劣化・断線などの不具合を生じる原因になりますからご注意下さい。

5. 異常表示

- (+) オーバー表示 : 1 ■■■. ■℃
- (-) オーバー表示 : -1 ■■■. ■℃
- センサの無接続 : 0℃付近
- センサの断線 : (+) オーバー表示
- センサの短絡 : (-) オーバー表示

6. 仕様

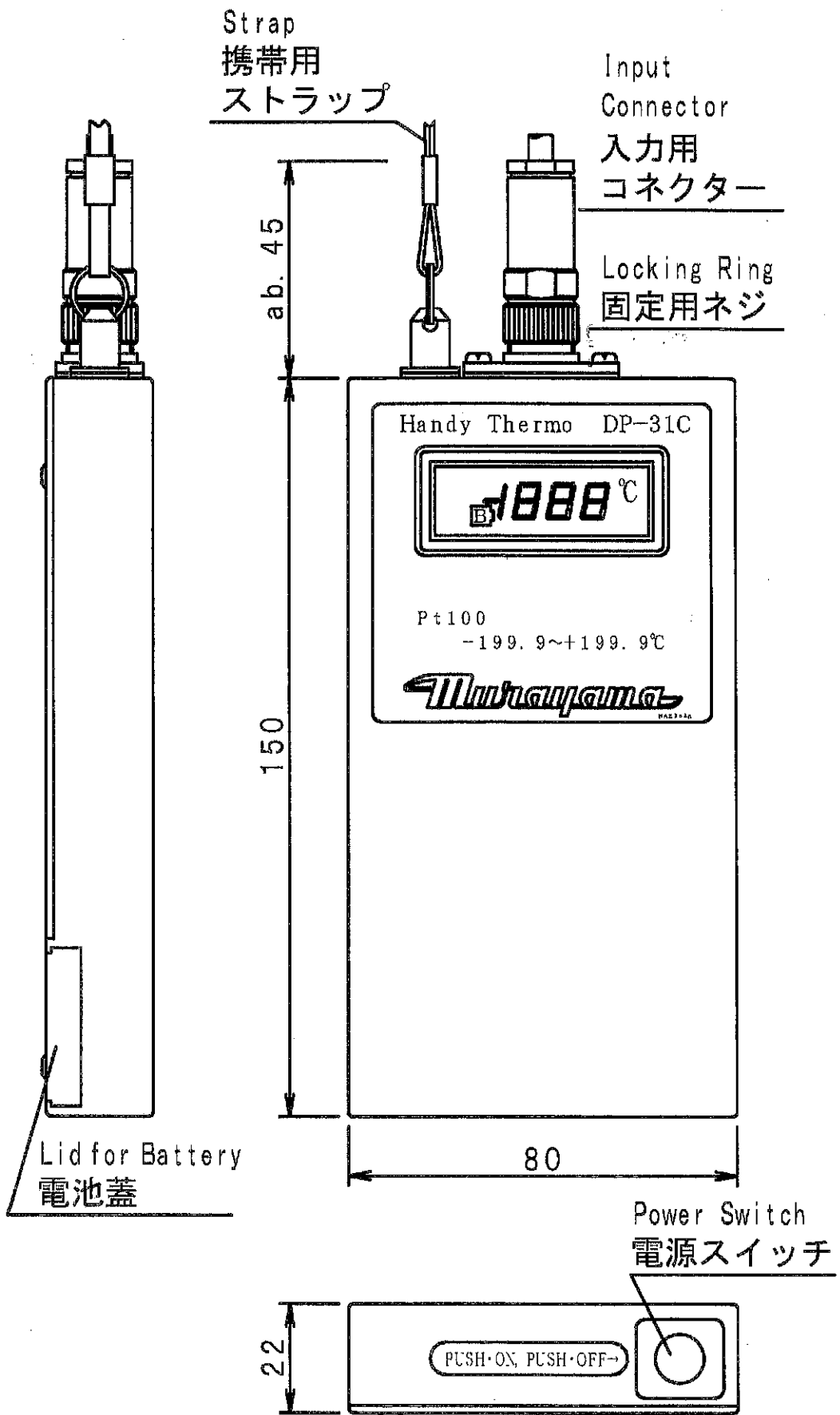
- 表示器 : 液晶表示器 (文字高 10.2mm)
- 極性表示 : (-) のときのみ自動表示
- オーバー表示 : (+) オーバー表示 1 ■■■. ■℃ (■内の表示はありません)
- : (-) オーバー表示 1 ■■■. ■℃ (■内の表示はありません)
- バッテリー表示 : 電池電圧の低下” \square ”のマークで表示
- サンプリング : 約3回/秒
- 周囲温度 : 最適動作温度・・・23℃±5℃
- : 確度保証温度・・・0～+40℃
- : 最大動作温度・・・-5～+50℃
- : 保存温度・・・-20～+60℃
- 電池 : 006P (9V)、1個 (電池寿命、連続50時間)
- 構造 : 防滴構造 (電池室を除く)
- ケース材質 : ABS樹脂
- 外形寸法 : 80w×50h×22t (突起物を除く)
- 質量 : 約255g (センサは含まず)
- 付属品 : 取扱説明書1部、センサ1個
- センサ入力 : 白金測温抵抗体 (Pt 100Ω)、3導線式
- 測定範囲 : -199.9～+199.9℃ (分解能、0.1℃)
- 確度 : 表-6の通り (本器のみ)

表-6. 測定範囲と確度

測定範囲	周囲温度 (23±5℃以内)	温度ドリフト (0～40℃)
-199.9～-150.0℃	± (表示値の0.5%+0.5)℃	-20～+50℃の範囲 …±0.1℃/10deg. 上記以外の範囲 …表示値の±0.3%/10deg.
-150.0～-100.0℃	± (表示値の0.2%+0.5)℃	
-100.0～+150.0℃	± (表示値の0.1%+0.2)℃	
+150.0～+199.9℃	± (表示値の0.2%+0.2)℃	

(確度と温度ドリフト)

23±5℃以外の温度で使用する場合、23±5℃における確度に更に温度ドリフトを加算した値がその周囲温度による確度です。



S-43640

Murayama Denki Ltd.



Head office 6th Floor, RK Bldg., 2-13-10 Shimomeguro, Meguro-ku,
Tokyo 153-0064, Japan

本 社 〒153-0064 東京都目黒区下目黒 2-13-10 RKビル 6 F
TEL. (03) 6417-9800 FAX. (03) 6417-9801

Factory 1-25-7 Hashimotodai, Midori-ku, Sagami-hara-Shi,
Kanagawa 252-0132, Japan

工 場 〒252-0132 神奈川県相模原市緑区橋本台 1-25-7
TEL. (042) 774-5696 FAX. (042) 774-6790

Kesennuma office 205 Nagane Bldg. Tanakamae, Kesennuma-Shi,
Miyagi 988-0053, Japan

気仙沼 〒988-0053 宮城県気仙沼市田中前 2-2-7 ナガネビル 205
TEL. (0226) 22-5543 FAX. (0226) 22-5543

The home page address

ホームページアドレス <http://www.murayama-denki.co.jp>